質疑と議論（笹俣さま、筒井さま）

* 南部：シナリオAは固定費回収できる？AとBの差は、固定費の未回収分？
* 筒井：シナリオAはもっと低下できないか？事業者別に見ると儲かっている事業者とそうでない差が大きい
* 南部：Aの燃料費が変わると全体が変わる。
* 南部：2030年にEVが増えたら、化石燃料の需要は減るので、価格が下がるかもしれない
* 笹俣：原油価格が下がった。結論でいうと、LNG必要、石炭多いとしたが、最終的にLNGの利益が出る瞬間は夏の昼とかだった。しかし、全体的に夏緑が下がると、稼働率が下がってLNGが儲からなくなる
* 内藤：LNG価格、いまは固定価格だが、今後スポット価格になるので、2030年には調達価格が下がるのでは？
* 内藤：総需要（経産省）は、実体で見ると、成長と電力消費の関係が分離していて、電力需要は毎年下がっている。欧州も同様。メリットオーダーでLNGが勝つのでは？
* 笹俣：需要が下回ることは言われている。シナリオAとBはそうなると、もっと差が出てくる
* 筒井：2050年CO2を80%削減と考えた場合、いろんな電化の話があるので市場は広がる
* 内藤：欧州はそれでも電力消費が下がると見込まれる。いま簿イラー用の燃料は売れておらず、いまは自働車用燃料のみ。EVに大転換すれば、燃料需要がなくなる
* 南部：石油価格1/5になれば、安い方に行く
* 南部：車のマーケットが大きく変わる
* 笹俣：市場について、長期的に見ると石油需要は価格に変化する。みえざる手だけでなく、EV（英仏中）の効果をそのまま当てはめても、電力システムは大丈夫
* 筒井：今年のモーターショーは、これまでの経済理論の考え方が変わった。
* 笹俣：天然ガスの需要が増えるのは予測できるが、石炭は下がっていくデカップリング。
* 諸富：WEO2016シナリオにおける炭素価格は？
* 笹俣：たしか30ドル/t
* 諸富：CO2価格上がるとガスが石炭を上回るのは、最新の稼働率が良い
* 南部：古い効率の悪いものが残らないとダメ
* 笹俣：市場的には残らないので、ガスは消える
* 松田：メリットオーダーで、限界費用ゼロの再エネが古いガスを押し出す
* 笹俣：ドイツでは平均でも低い稼働なので採算合わない
* 南部：3%調整電源ということだが、もっと必要では？
* 笹俣：再エネが増えれば調整電源は必要だが、広域での融通で調整力市場は低下して、価格も低下している。他の市場で融通することによって調整なくてもやっていける
* 南部：日本で広域の調整力はいえる？
* 筒井：ドイツのケースで、再エネが一定以上増えると調整は減少した。米国は調整が増えてきた。何が影響しているかわからない。
* 諸富：安田先生も風車の角度を変えて調整している。VPPは？
* 南部：EUは何カ国もある。日本で広域調整はできる？日本のポートフォリオは少ししかない。
* 笹俣：いくつか疑問ある。電力会社間のやりとりが全くシステマティックになっていない。微小な調整がいまできない。
* 南部：それを全部近代化しても、発電量をたくさん稼げるか？
* 内藤：実際に旧型はピーク時のみだけであれば、平均したら合わないのでは？
* 筒井：ずっと旧型ではなく、一年間（季節、平日、休日）
* 笹俣：たまたまこのミックスだからで、もっと再エネが導入されるとピークがなくなる
* 内藤：GTCCの稼働状況からずれているのでは？
* 笹俣：JEPXで比較すると、特殊な時間帯以外は、基本的に誤差がないぐらいの精度がある（東日本全体であれば当たるモデルとなっている）
* 内藤：東電が古い発電所から電源を入れずに、GTCCから稼働するのか？
* 筒井：それは市場操作するということ。総括原価の計算の仕方で、高い方から稼働すると問題になる。規制が全て外れて監視がなくなったら、GTCC優先になる。
* 松田：瞬間的に市場に出て来ない電力